

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075800336
法人名	サンコーケアライフ株式会社
事業所名	グループホーム えださか
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市平 1492-1 (電話) 0948-42-3020

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年6月11日	評価確定日	平成20年6月30日

【情報提供票より】(平成20年 5月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.6人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	230 円	昼食	430 円
	夕食	440 円	おやつ	夕食代に含む 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.7歳	最低	77歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険稲築病院、西野病院、田川慈恵病院、有吉歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな広い敷地に設立されたホームは緑が多く四季折々の季節を感じることができる。母体である会社の代表者が高齢者が多くなった地域に貢献したいとの思いで会社の社員寮を改装しグループホームを立ち上げた。その中で暮らしている利用者の表情は穏やかで、ゆっくりとした時間が流れている様子が窺われる。職員も、代表者の思いである入居者第一、心にゆとりを持ち思いやりの精神を共有し、利用者や家族が安心して生活できるよう日々努力している。市や地域との関係も良好で、ホームが孤立することなく地域の行事や中学生の体験学習の受け入れなどを行い、地域と密着したホームを目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点は権利擁護に関する制度の理解と活用、職員を育てる取り組み、なじみながらのサービス利用、栄養摂取や水分確保の支援となっているが、職員を育てる取り組み以外は代表者、ホーム全体で話し合い改善されている。職員を育てる取り組みに於いても今年度は研修等学ぶ機会を作るよう研修等計画中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎に話し合いを行い、全体会議にて改善点も含み全員で話し合いを持ち、ホームの長所や改善できる点を明確にしホーム全体で取り組みを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市の担当者、市議員、民生委員、地域代表者、家族代表、ホームの管理者、職員等の出席があり2ユニット合同で定期的開催している。ホームの運営や利用者の状態に関しては勿論であるが、家族からの相談もあり市の担当者が助言する等有意義な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族が面会に来た際にどの職員でも利用者の状態を報告できるよう職員が情報を共有し、家族に報告をし、家族からの意見を聴き取るようにしている。2ヶ月に1回ホーム便りを家族へ郵送し状況報告を行っている。家族会の開催もあり要望や意見に対し、法人代表者、管理者等が話し合い改善に向け努力している。
重点項目	日常生活における地域との関連(関連項目:外部3)
	場所柄町内会への入会は難しいこともあるが、ホームから積極的に地域へ出向き地域との交流を図っている。近隣の保育所との交流にて敬老祝賀会を催したり、地域の中学生の体験学習を受け入れその中学生がホームに就職するケースもある。また、地域の祭りや行事への参加も利用者と共に参加し地域住民との共生を目指している。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくらせてあげている	法人としての基本理念は「入居者第一」であり それに加えホーム独自の理念「心にゆとりを持ち思いやり」の精神で地域の方とのふれあいを大切に開かれたホームを目指す」という解りやすく、利用者、地域との関わりを表した理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの目に付くところに掲示し、いつでも確認できるようにしている。2ヶ月に1回の定例会議に於いて法人代表者が全職員に伝え、それを踏まえ職員は利用者の安全、安心を第一に考え日々取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育所との交流を行ったり 中学生の体験学習の受け入れや運動会に招かれ利用者と共に見学に行くこともある。また、地域の祭りや行事へ積極的に参加している。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に話し合いを持ち、全体会議にて改善点を含め話し合いを行っている。自己評価の結果をホームの姿の確認振り返りの材料とし、日々の業務や暮らしに活用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。出席者は地域の関係者、市議員、民生委員、市の担当者と家族、職員等充実した会となっている。地域とホームの関わりや、ホームの状況の報告、家族からの相談等で市との情報交換も行っている。		

グループホーム えださか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者や管理者が市の窓口に行き直接要望を伝えたり相談し、関わりは深い。また、パンフレットを配布しホームの存在の広報にも取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料を準備し施設長が職員研修を実施した。全職員はパンフレットを各自持っており機会あるごとに目を通し必要な人にはおおまかに説明できるようにしている。ホーム内にもパンフレットを置いており活用できるようにしている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の状態や近況報告を行っている。全ての職員が情報を共有し誰でもが対応できるようにしている。2ヶ月に1回ホーム便りを金銭管理の報告と一緒に家族に郵送している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、家族面談を定期的に行き、家族からの意見を聴き取っている。また、面会時に直接要望等を聴き取るよう気軽に声をかけることを心がけている。外部への窓口も掲示している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが最小限にしており異動や離職の際は管理者が1週間程付き添い利用者の情報や業務を新人職員に伝えている。退職者の報告は利用者、家族へ報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用に関しては性別や年齢等条件は無い。採用する職員の年齢層を幅広くし経験や知識、特技を活かせるよう配慮している。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	職員会議にて、人権に関する研修を行っている。また、虐待やその他人権に関する資料を回覧し職員全員が意識を持つよう啓発している。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部の研修の案内にて、職員は希望により研修を受けることができる。研修参加後に伝達研修を実施し情報共有に努めている。		外部研修の参加はブロックの勉強会やその他の研修にて学ぶ機会を設けている。ホーム、法人内での年間計画を現在計画中であるので、今年度は内部研修の充実を期待したい。
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に参加している。職員も交代で会議等に参加し他の同業者との情報交換を行い、勉強する機会がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入院先から入所となることが多い為、入院先に管理者が出向き利用者、家族と面談を行っている。入所前の体験利用を家族に薦め本人が馴染めるよう取り組んでいる。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者も家族の一員であること、人生の先輩であることを心得、昔の出来事や昔の生活の知恵を日常生活の中で教えてもらい利用者職員が情報交換しお互いを知る工夫をしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を取り入れ本人の思いを具体的に解る工夫をしている。家族と密に話し合いを持ち本人の意向の把握を行っている。また、本人の表情を観察することで思いを察知している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の言葉や表情を見逃さず聞き取り、利用者の思いと家族の希望を確認しミーティングで話し合い情報を共有し計画を立てている。主治医の意見も反映されているが、会議録が個々に無い状態である。</p>		<p>本人の思いが細かく表された計画となりわかりやすいが、担当者会議録が利用者個々に無い為、話し合いから計画を作成したものと、家族の希望や主治医の意見等一目瞭然になると思われる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の見直しと状態の変化により見直しを、定例会議とその都度のミーティングにて職員全員で行っている。家族の要望や主治医の意見を参考にしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望にて臨機応変に対応している。利用者が入院した場合は洗濯物を取りに行き状態の確認を行ったり利用者の親族の冠婚葬祭に利用者連れて行くこと等その時必要と思われることへの支援を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にてかかりつけ医は其々であるが、職員同行にて受診し家族へ報告している。協力医の往診体制は整っており往診以外でも毎日のように協力医がホームに立ち寄り利用者の状態を気遣っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族の意向や希望を聞き取り、本人の思いを確認している。重度化した場合は協力医との話し合いで入院することが多い状況である。		ホームの方針はあるが、口頭にて説明し、家族へ確認している状況である。利用者、家族の意向とホームの方針の食い違いを生じる可能性もある為、ホームの方針を書面にて提示し同意を得ることを実施されてはどうか。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格や個人を尊重した優しい対応している。個人記録等、第三者が目につかない場所にて鍵の掛かる書庫に保管されている。個人の名前や写真を表記する場合は同意書を交わしている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日生活の流れはおおまかにあるが、本人のペースに合わせ利用者が自由に生活できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付け等利用者のできることをさりげなくしてもらい、食事は利用者とその日の勤務の職員全員と一緒に食事をし、静かではあるが、暖かな会話を交わし和やかな雰囲気の中食事を摂っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットで交代で隔日にて曜日設定はあるが、本人の希望があれば随時入浴可能である。以前は毎日入浴日を設けていたが、利用者から毎日の入浴は身体的に負担があるとの声にて隔日としている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特技を活かし畑で野菜を作ったり家事のできることは職員と一緒に行う等役割がある。また、秋に作品展がある為縫い物や美術作品を作る等利用者が力を発揮している。日常では、ゲームやカルタ取りで声を出し気晴らしの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩やスーパーに買い物に出かけることは、日常的に行っている。外出を好まない利用者へは、戸外に出て外気浴をしてもらつ事等も支援し、季節を感じられるよう花見やドライブ等実施している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放され利用者が自由に出入りしたり家族も何時でも面会に来られる。利用者が屋外に行った場合は、さりげなくついて行く様子を見ながら本人に合わせて対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回消防署立会いにて避難訓練を実施し、夜間想定したものも行っている。特に夜間時の火災に関してはマニュアルを元に何度もシミュレーションを行っている。ホームの横に同系列の会社の社宅がある為、緊急時には協力を得られる体制を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立をチェックしており、栄養のバランス等助言してもらい、利用者の栄養の確保を行っている。食事量の記録と必要に応じ水分摂取のチェックを行い、個々に対応している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すっきりした玄関、清潔に整理整頓された台所は気持ち良く、食卓には畑に咲いている花が飾られている。居室や居間には大きな窓から自然の光が入り心地よさを感じることができる。壁面には利用者が作成した季節感のある飾りつけがされており、利用者と職員と一緒に楽しんでいる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた使い慣れたベッド、収納ケースやその他本人が愛用していたものが部屋に置かれ、生活の継続ができるよう配慮されている。		